令和５年度第４８回近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会滋賀大会

ＰＴＡ会長 山本　順計

7 月 1 日に開催されました、近畿地区高等学校 PTA 連合会滋賀大会に参加させていただきました。参加者は近畿各地から保護者・先生の総勢 1,100 人、オンライン参加 120 人でした。ウェルカムパフォーマンスとして滋賀県立守山高校吹奏楽部が登場し、部員数の多さもさることながら、力強さの中に優しさが感じられる華やか演奏で、盛大なスタートとなりました。また、記念講演は『これからの時代の PTA のありかたを考える』をタイトルに、ドイツ在住ジャーナリストの高松平藏氏のお話を聞かせていただきました。

午後のシンポジウムでは、日本とドイツの互いの違いを情報交換し、参加者それぞれがどうあるべきかを持ち帰り考える「未来志向型意見交換会」となりました。私は小学校、中学校と PTA 活動に積極的に参加してきましたが、毎年年度末になると PTA 不要論が SNS 等で飛び交うことに不快感を持っていました。そうした中で、今回の近畿大会は私にとって大変興味深いものでした。ここで、日本とドイツの違いを一部抜粋します。

ドイツは地方分権型国家で、学校に PTA は無く、その代わりにクラス保護者代表と保護者評議会（諮問委員会）があり、保護者に議論の機会を与えるために代表者 2 名を選出します。また、保護者評議会は、主に生徒と保護者の利益を代表する役割を持ちます。

一方、日本では PTA 連絡協議会の解散が決定した地域も出てきており、全国レベルで本当に深刻な最重要課題となっています。保護者の目線から見て、一人親世帯の増加、共働きによる時間の余裕の無さが見えます。また、楽より苦の発信が勝ってしまっている所が更に拍車をかけている感じもします。ただ、私個人の考えとしては PTA を無くす事には異論を唱えたい。時間の余裕もそうですが、問題は「心の余裕の欠如」だと思います。変化を受け入れる思考が大事で「無難な考えは衰退を意味する」というのが私の考えです。「保守的」という言葉がありますが、現状維持を心掛けることが保守ではなく、一つでも攻め前進して行くことが結果として現状維持に繋がります。地域生活をはじめ、より良い社会を築いていく為にはこの「PTA のありかた」

も非常に重要だと考えます。すべてのことに言えることですが、無くす事は簡単です。しかし、そこにこれまで築き上げてくださった先人に対するリスペクトは無いように感じます。国のもとにある PTA ではなく、ドイツのような地方分権を PTA が地で行けるような、PTA 改革がこれからの学校教育に求められているのではないでしょうか。私にとって、この滋賀大会は「得るでなく、個々に考える」大変有意義な機会となりました。この折角得た機会を個々でとどまらせる事なく引き続き発信してまいりたいと思います。